

持続可能な
インパクトを
生み出そう

RI会長
オンライン・ハキーム・ババロラ

まるがめ

週報

会員数 42 名 出席者30名・欠席者10名・免除会員4名

2026.8.27
Vol.64
№6
(3021)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 岡田 将一郎
幹 事 有家 修身
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

- ・ 8月のプログラム
6 (No.1)-AG補佐公式訪問
20 (No.2)-暑気払い
27 (No.3)-ガバナー公式訪問

- ・ がんばるBOX;
祝誕生月
峠君
森ガバナー様をお迎えて
夏見君 秋山憲夫君
細谷君 和泉君
岡田君 有家君
昨年亡くなった父が映画
デビューしました
「ハルカナ」という映画です
神余君
先週とある場所で頑張って
奉仕しました
吉田君

<がんばる会計累積/ ¥ 124,500>

- ・ ニコニコ
本日はよろしくお願いします
森ガバナー様

例会場・事務局

丸亀市塩飽町48-1 丸亀プラザビル

■会長挨拶

森ガバナー、本日は丸亀ロータリークラブにお越しいただき、誠にありがとうございます。例会に先立ちまして、森ガバナーとは約1時間ほどお話をさせていただきました。今年度、地区をどのような方向へ導いていこうとされているのか、そのお考えを改めてお聞きするとともに、森ガバナーのお人柄にも触れることができ、大変有意義な時間となりました。さて、先週の例会は今年度初めての夜間例会でした。会場は丸亀ポートの「ROKU」ということで、いつもの例会とは少し違った雰囲気の中、皆さんと楽しく親睦を深めることができたと思います。せっかく丸亀ポートでの開催でしたので、私も舟券を買ってみました。結果は見事に撃沈でございました(笑)。舟券の方は残念でしたが、皆さんとの楽しい時間という意味では、大変良い夜間例会だったと思っています。そして本日は、丸亀ロータリークラブからガバナーを務められました夏見先生にもご出席いただいております。夏見先生には、ガバナーを終えられた後もパストガバナーとして、現在も地区内外で大変お忙しくご活躍されております。せっかくの機会ですので、後ほど少しだけでも、最近のご活動や近況についてお話をお聞かせいただければと思っております。本日は森ガバナーから直接お話を伺える大変貴重な機会です。会員の皆様にも、今年度の地区の方向性をしっかりと感じ取っていただき、これからの丸亀ロータリークラブの活動につなげていただければと思います。

■例会事業;ガバナー公式訪問

森雄司ガバナー様 菅原順三ガバナー補佐様
寺川洋史地区副代表幹事様 松本健二地区副会計長様

皆様、こんにちは。松山南ロータリークラブに所属しております。今年度当地区のガバナーを務めます森雄司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は公式訪問ということで、例会に参加させていただきました。少しお時間をいただきまして、お話をさせていただきます。まず、私にとって丸亀ロータリークラブへの訪問は、7月から始まって20クラブ目となります。どのクラブに訪問する際にも、あらかじめ予習・勉強をしておりまして、『ロータリーの友』の過去の記事がホームページ上ですべて閲覧

できますので、訪問するクラブの情報を検索するようにしております。皆様ご自身のクラブのことですので重々ご存じとは思いますが、少し紹介させていただきます。まず、1963年7月号に「新クラブ」として丸亀ロータリークラブが掲載されています。1963年6月1日設立、6月27日承認ということで、大変歴史のあるクラブです。翌1964年3月号の「新ロータリークラブ誕生」という紹介記事では、当時の会長・幹事の抱負として、「会員相互の理解と友情を深めながら、ロータリー精神を体得し、地域の生きた力として特色あるクラブ育成に努めるとともに、ロータリーの奉仕の精神に邁進する」と書かれていました。当時の抱負を改めてご紹介すると、どこのクラブの皆様も非常に感慨深く受け止めてくださいます。

(裏へ続く)



続いて1971年5月号の「パナー物語」では各クラブのパナーが紹介されており、丸亀クラブのパナーについても、1597年築城の丸亀城の外壁と、国内生産の大部分を占めるうちわについて説明されていました。また、1984年1月号では「児童画の交換で日英交流」として、市内3小学校の児童の絵画作品をイギリス・ブライトン市のマイル・オーク小学校へ送り、先方から送られてきた絵画を巡回展示した記事が掲載されていました。1985年2月号には、創立20周年記念事業として移動図書館車「白鳥号」を寄贈された記事があり、先ほどの会長幹事懇談会でも「知っていますよ」というお声がありました。2008年9月号には、「未来への手紙」事業にあわせて丸亀ロータリークラブのオリジナル切手を作ったという記事がありました。小学5年生から手紙を預かり、中学2年生の時に届けるという、本当に素晴らしい事業です。この記事を読まれた船橋南ロータリークラブの切手好きの会員との間で切手のやり取りがあり、新たなご縁が生まれたことも紹介されていました。そして、丸亀ロータリークラブといえば、夏見パストガバナーを輩出されたクラブです。2024年7月号のガバナー紹介記事や、翌年4月の地区大会の様子も掲載されています。夏見パストガバナーには、大先輩として日頃からさまざまなご指導をいただいております。今後もロータリー財団の地域リーダーとしてご活躍されると思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。このように『ロータリーの友』の電子版アーカイブでは、各クラブ共通のID・パスワードを入力することで、全年代・全ページの閲覧やキーワード検索ができます。ぜひいろいろな言葉を入れて、昔の記事をご覧ください。

次に、私のプロフィールについて少しお話しさせていただきます。ロータリー歴のところに「1980年 今治青少年の友の会 入会」とあります。これは中学2年生の時に入ったものです。1950年、昭和25年に、ロータリー精神にかなう活動をした今治市内の小中高の卒業生を今治ロータリークラブが表彰したのが始まりで、翌年、その子どもたちが会を作ろうということでできた組織です。中学校側が2年生の男女を1人ずつ推薦し、3年生になって高校へ進学すると、また新たな2年生が推薦されます。中高生が混在し、常に50人弱ほどが所属していました。今治ロータリークラブのご指導を仰ぎながら、清掃活動や高齢者施設への慰問活動などを行っていました。昭和28年、1953年9月号の『ロータリーの友』には、都会の子どもたちに螢を見せようと、大阪の夜間学校の生徒さんに螢を捕まえて関西汽船で届けたという記事も載っています。また、今治城の早朝清掃をクラブと一緒にやる行事があり、私も2か月前の6月に46年ぶりに参加してまいりましたが、本当に感慨深いものがありました。当時、中学生ながら「ロータリー＝奉仕」という言葉は頭に刻まれましたが、まさか自分が将来ロータリーに入るとも、ガバナーになるとも夢にも思っていませんでした。その後、40年近くロータリーとは関わりのない生活を送っていましたが、ご縁があって2018年に松山南ロータリークラブに入会し、今日に至ります。今年1月には、アメリカ・フロリダ州オーランドで開催された国際協議会に行っていました。世界516地区のガバナーエレクトが集まり、半年後にガバナーになるための研修を1週間受けるものです。日本からは34地区、34名が参加しました。実は7月の活動開始時点で、2年間一緒に準備してきた仲間のうち3名の方が、体調不良等で交代せざるを得なくなってしまい、非常に残念に思っております。そうしたことも含め、来年6月まで健康でしっかりと活動を終えることが何より大事だと実感しております。その国際協議会の中で、オレインカ・ハキーム・ババローラ（インカ）RI会長から、2026-27年度の会長メッセージ「Create Lasting Impact (持続可能なインパクトを生み出そう)」が発表されました。「インパクト」と聞くと大規模なことをイメージしがちですが、ロータリーにおけるインパクトとは、ロータリー活動によってもたらされる長期的で好ましい変化、そして、より良い変化が継続していくことを意味します。これを受け、今年度の地区メッセージを、

「ロータリーを知り、参加し楽しもう！」～学び、実践することによりインパクトを生み出そう～

とさせていただきます。日本人初のRI会長である1968-69年度の東ヶ崎潔氏のテーマは「PARTICIPATE！」で、日本語では「参加し敢行しよう！」「進んで参加せよ」などと訳されています。英語で参加を表す言葉には「Join」と「Participate」があります。船に例えると、「Join」は乗客として船に乗ること、「Participate」は船員として運航業務を担当して働くことです。船員として職務を全うするには、その職務内容を熟知していなければなりません。ロータリーも同様で、委員会の活動内容を理解せずに参加することはできません。進んで参加するためには、まずロータリーを知る必要があります。まずはロータリーを知ること。知った上で興味が湧き、好きになる。そして「参加してみよう、やってみよう」と実践し、結果としてその活動が楽しくなる。「学び、好きになり、実践し、楽しむ」というプロセスを通じて、皆様と共にインパクトを生み出していきたいと考えております。

